

■R02.05.07 市長記者会見内容

日時 令和2年5月7日(木)午前11時～12時

場所 庁議室

出席 市長、教育長、総務部長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、交流推進調整監、健康福祉部長、子ども・家庭支援調整監、総務課長、財政課長、危機管理課長、企画課長、商工港湾課長、交流観光課長、健康課長、市長公室長

酒田記者クラブ 7社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、河北新報、YBC、YTS)

コミュニティ新聞社(記者クラブの承認により出席)

■市長発表内容

【経済支援対策について】

定例記者会見ということで、今日は酒田市の新型コロナウイルスの経済支援対策について、発表させていただきたいと思う。4月23日に第1次の経済対策の補正予算を組んで皆様にも発表させていただいた。お手元の資料に整理しているので、ご覧いただきたい。

105億6,325万円の専決を本日付でさせていただいた。議会にも報告している。その中の柱建ては、新型コロナウイルス対策としての経済の支援策、独自支援策の第2段というのが骨格になっている。その事業の中身についてかいつまんでご説明申し上げる。

15項目ほど整理をさせていただいた。1番から3番については、4月23日に補正予算第2号で決定をしている事項で、旅館・ホテルへの支援、飲食店への支援、タクシー・運転代行業への支援。この3つについては、補正第2号で5,750万円ほど補正を組んでいるので、その中で皆さんに説明させていただいている。中身は令和2年3月分の上下水道料金相当額の補助で、上限額としては、ホテル・旅館については50万円、飲食店については20万円、タクシー・運転代行業については、登録台数につき1万円ということで内容を組み立てている。このたびの補正であるが、緊急事態宣言が更に1箇月ほど延びた、あるいは各市町の支援措置が具体的に出てきた、更には国・県の支援も固まってきたという中で、酒田市としても拡充をして、地元の、特に1番苦しい旅館・ホテル、飲食店、タクシー・運転代行業も含めて、手厚く拡充をしたいという思いから補正第3号を組ませていただいた。その中身であるが、1つは、貸切バス業にも拡大している。これが4番。それから旅行業も拡大をして、これが業種として増やしたということがある。それから1番から3番については、1回という前提だったが、それを更に4回分上乗せをするという中身にしている。従って、合計でいうと、3月分の上下水道料金相当額補助の上限額、例えば旅館・ホテルでは50万円だが、この5倍、最大で250万円支援をするという制度に拡充させていただいた。それから飲食店についても同様に5倍になるので、最大上限額が20万円なので、100万円差し上げることになる。タクシー・運転代行業についても、登録1台で1万円だったが、これも5倍にするので、1台

であれば5万円となる。10台であれば50万円。5倍の拡充を図ったのが、今回の補正の1番から5番までとなる。貸切バス業、旅行業についても1回分ではなく5回分見込んだので、例えば貸切バス業については、大型バス1台につき5万円。大型以外は3万円ということにしているが、5倍分なので、大型バス1台持っていれば25万円差し上げることになる。ちなみに1番持っているところで、18台持っている。18台だと上限の50万円を超えるので、250万円ということになる。旅行業については、本市に本社を置く1事業所につき10万円なので、5回分で50万円だが、9社あるということで、450万円計上することになる。これが従来型の拡充をした中身ということで整理している。

それから6番目については、出前、持ち帰り販売を行う事業者への支援ということで、1事業者につき3万円予定しているが、これについては5倍にすることは予定していない。

旅館・ホテル、飲食業等については既に申請・給付が始まっていて、118件の申請が来ている。7月31日まで受付をしているので、既に申請が済んでいるところ、これから申請をするところがあるが、この5倍相当額の振り込みをしていきたい。

それから7番であるが、これは後ほど記者会見が終わってから、中身の詳細について説明させていただくが、先払いチケット「もっけ玉」の購入代金のうち20%相当額を補助していく形で、地元の事業者支援をしていきたいと思っている。この「もっけ玉」事業については、民間企業であるチェンジ・ザ・ワールドが他に先駆けてシステムを構築してくれたものであり、先払いのチケット方式を電子上、紙ベース上の両方で展開しようとしている。毛色の違ったプレミアム商品券と思ってもらえばいいのだが、20%分は市がプレミアムを付けて補助をする。5万円のものであれば、実質4万円で入手できるという形となる。20%分は市が助成するという仕組みだが、なぜこれを支援策として位置付けたかという点、1つは地元の飲食店・小売店・サービス業に対してお金を先にお支払いする、サービスは後から受けるというシステムを地元の企業の皆さんが開発してくれたということで、これを是非後押しをして今回の地元の事業者の応援として我々が取り組みさせていただきたいという思いからだった。テイクアウトに関する支援もそうだが、バイ酒田ということにこだわって、酒田の業者が厳しい状況下で少しでも経営が維持できるような仕組みを作りたいという中で、「もっけ玉」という取り組みは非常に面白いと思ったものだから、今回コラボレーションという形になるが、事業として組ませていただいた。3,370万円という金額が入っているが、説明のところに公益大生の人件費分を除くとある。これについては、11番に東北公益文科大学学生等へのアルバイト先提供支援というのがあるが、最近アルバイト先がなく学生が困っていることがあったので、学生のアルバイト支援という意味合いで位置付けた事業になる。この中に「もっけ玉」事業を展開するにあたって、店から登録してもらわなければならないものだから、その登録を促すような活動を公益大の学生さんからやってもらうことになる。それもチェンジ・ザ・ワールドさんからはアルバイトとして活用していただいて、ということになる。そんな形で支援をしていただく金額が11番の中に組み込まれており、その

分も本来は、「もっけ玉」の事業の中にセットで計上されていることになるので、あえて公益大生の人件費分を除くと書いたのは11番にその部分が入っているということで、ご理解をいただきたいと思う。

それから8番の特別児童扶養手当受給世帯への支援についてだが、身体、知的または精神に障がいのある20歳未満の児童を養育している世帯を応援する制度で、特別児童扶養手当受給世帯に対しては、市独自に緊急支援金として20,000円を提供したいと考えている。約250世帯を想定している。

9番、ひとり親家庭等への支援については、児童扶養手当を支給している世帯が基本的には対象となるが、ひとり親家庭でくくらせてもらった。そういった方々を応援する手立てとして緊急支援金を1世帯に20,000円を提供させていただきたい。800世帯を想定しているので1,800万円計上している。

それから10番目の花き農家収益向上への支援。3月、4月に入学式・卒業式、送別会などが中止になった。その関係で地元の花屋さんもそうだが、花き栽培農家の皆さんも大変収益が落ち込んだという実態がある。今も続いている状況であり、これから花の栽培をする、花屋を経営していくうえで不安に思っている方がたくさんいるということなので、そういう意味では地元の花をどんどん消費してもらおうような仕掛けをしていきたい。まずはご結婚、ご誕生された方々に酒田市が購入してプレゼントするという事業をやるということで、これが酒田で栽培された花。こういったものを結婚、出産された方に市からプレゼントをしたい、市が購入してプレゼントする。これは地元の花なので即地元の栽培農家の収益にもつながるだろうということで、予算化をしたところ。これは4月1日に遡って、令和2年度中に結婚、出産された方々にプレゼントをしたいと思っている。

それから11番。東北公益文科大学生等へのアルバイト先提供支援事業だが、これも学生のアルバイト先がなくて非常に困っていると聞いている。まずは酒田市が直接雇用する場を創出して、経済支援というか雇用してアルバイト的な費用を市が支払いをしていくことで、アルバイト先が少なくなっている穴埋めの活動を支援していこうと思ったところ。支援する中身としては、公園の美化だとか様々なものが考えられるが、学生の得意分野で酒田市の様々な事業にお手伝いいただいて賃金を支払うということでの支援が1つ。もう1つは、「もっけ玉」の発行事務にあたって公益大生からアルバイトとして頑張ってもらいたいということで、これはチェンジ・ザ・ワールドに補助金を出す形で支援をしていきたい。

それから12番の75歳以上の高齢者への支援であるが、酒田市の友好都市である中国河北省唐山市とやりとりをする中で緊急にマスクを酒田のために売ってもらうことができることになった。10万枚購入をする。酒田に届き次第、75歳以上の高齢者の世帯がマスクの確保に苦慮しているという話を聞いていたので、75歳以上の高齢者の皆さんに支給をしたいと考えている。

それから13番が感染症の最前線で業務をしなければならない方等への宿泊施設提供

支援ということだが、具体的に言うと、医師とか看護師の皆さん、なかなか自宅に帰ると家族への感染のリスクを気にしたりということで、仕事が大変だという話を伺っている。その方々を市内のホテルをシェルター利用をする際の宿泊料について市としても補助していきたい。部屋の規模にもよるがシングルで2,000円を補助する。食費は自己負担。。基本的にシングルであれば比較的安いので2,000円補助することで、食費は実費分を本人が負担すれば泊まれるという理解でいいかと思う。医療従事者がホテル利用する際に、市がホテルの借り受けに対し補助を出していくという措置。

14番は、休日診療所・平日夜間心療所の当番医師および薬剤師への補償ということだが、休日診療所は船場町にある健康センターの隣にある。それから平日の夜間診療所は日本海総合病院の救急の中に設けさせていただいている。酒田地区の医師会、薬剤師会の皆さんからご協力をいただいて、医師や薬剤師の皆さんを派遣しているわけだが、この方々も日々、新型コロナウイルス感染症にかかるリスクを背負いながら業務を行っている。そういった方々が感染、または濃厚接触者になった場合に医院を休まなければならないというハンデを背負うことになるので、その際の休業補償を市として提供していかなければならないだろうということでこの予算の措置をさせていただいた。

最後の15番については、来週から市内事業者の皆さんに対する緊急相談窓口を703会議室に開設をする。その際、様々な機関から担当職員がここに来て対応することになるが、その費用として161万2,000円ほど予算化した。

この経済対策分については、2億8,197万3,000円。トータルで言うと、3億3,947万3,000円ほど今回の専決処分した補正第3号の中に盛り込ませていただいた。独自の経済対策としてはこのような中身。次に5月専決補正予算ということで組ませていただいたが、その概要について総務部長から説明させる。

総務部長／今日、5月7日に専決をさせていただいた。議会にも説明し、全議員に通知をした。今回の補正が、令和2年第3号ということで、105億6,325万円専決させていただいて、補正後の予算総額が681億4,785万6,000円となる。

4番目に補正の内容があり、(1)国の補正予算等に伴う事業になるが、1つは特別定額給付金事業で、101億6,678万4,000円となる。4月27日に酒田市に住民登録している方を対象に、予算計上としては10万787人を想定しており、1人10万円の給付となる。昨日で出生届とか2週間を経過したので、今日から送付作業に移りたいと考えている。来週中には送付できると考えている。交付時期も5月下旬としていたが、5月15日から交付をしたいと考えている。マイナンバーカードによる電子申請をした方がいるのでそちらが早くなると考えている。次に子育て世代への臨時特別給付事業については、児童手当を受給している方、子どものいる方に1人1万円を増加する形で、対象は1万1,000人を想定している。交付時期は6月下旬を予定している。

次に(2)市が単独で行う事業。1番目が危機管理対策事業ということで、唐山市からマスクを10万枚購入するもの。それから最前線で働いている看護師さんや医師が帰宅

せずにホテルを利用する場合の助成。シングル宿泊料5,500円の場合は、市が2,000円、3,500円を利用者が負担することになる。和室等の1室利用の場合は、仮に1万2,000円の場合は、市が6,000円、利用者負担が2,000円、ホテルが4,000円を負担することになる。

緊急学生支援事業については、57万9,000円であるが、東北公益文科大学の学生などを支援するため、市が直接雇用して様々な事業に活用していきたい。

特別児童扶養手当受給世帯緊急支援事業については、障がいのある20歳未満の児童を養育している約250世帯に対して1世帯当たり2万円を支給することになる。6月下旬の支給を予定している。

ひとり親家庭等緊急支援事業。これはいわゆる児童扶養手当を受給している方が対象になる。これも2万円の支給で800世帯を予定して、これも6月下旬の支給を予定している。

診療所管理運営事業については、休日診療所、平日夜間の診療所で医師会の先生方や薬剤師さんが、万が一ウイルスに感染した場合に、休業しなければならないという場合に休業補償金を支給するもの。

経済関連の対策事業2億516万2,000円。1の(1)については、4月23日の臨時会で認めていただいたもので、令和2年3月分の上下水道料金相当額で上限50万円または20万円、タクシー・運転代行業については、登録1台につき1万円。これを今回の専決で4回分を計上させていただいている。新たに(2)の旅行業については10万円を5回分、貸付バス業については大型5万円、中型・小型については3万円以上50万円になるが、これを5倍の支給となる。また、5月11日から行う、商工会議所、金融機関、社会保険労務士、市担当職員が完全予約制により相談するための相談ブース等の費用を計上している。

「もっけ玉」活用支援事業については、後ほど説明があるが、3,460万円を予算計上している。

さかた農産物消費拡大事業については、花を贈る事業として約1,000件、350万円を計上している。

6ページ目は、27日から受付を開始した市の独自事業の受付件数で118件、交付決定額が449万4,759円となっている。